

機関番号：34429

研究種目：基盤研究（C）（一般）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520407

研究課題名（和文） 日本語形容詞・形容動詞データベース作成と
それに基づく計量分析および語構成史の研究研究課題名（英文） Making of a database of Japanese adjective and adjective verb
and quantitative analysis and a study about history of word
composition based on this database.

研究代表者

村田 菜穂子 (MURATA NAHOKO)

大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：60280062

研究成果の概要（和文）：保元物語・平治物語・平家物語・今昔物語集から形容詞を採取する作業を行い、抽出した各見出し語の認定についての検討および用例数の再点検を行うとともに、新たに採取された形容詞については造語形式や結合タイプ・副次結合の度合い等の語構成論的分析を行った。そして、これに基づき、「軍記物語の形容詞対照語彙表」、「今昔物語集の形容詞対照語彙表」を作成した。また一方で、これまで取り上げてきた上代形容詞および中古形容詞について、いくつかの計量的分析を行い、これらの実態の考察を深めた。

研究成果の概要（英文）：We extracted adjective from Hogen monogatari, Heiji monogatari, Heike monogatari, and Konjaku Monogatari-Shu (the Tales of Times Now Past), examined the recognition of each headword, and checked the number of examples again. And we analyzed the adjective that had been newly extracted from the point of view of the theory of the composition of the word. Based on this analysis, we made "A Contrastive Lexical List of Adjectives in the Gunki Monogatari" and "A Contrastive Lexical List of adjectives in the Konjaku Monogatari-Shu (the Tales of Times Now Past)". Moreover, we did some quantitative analyses and considered in detail.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：国語学、語彙、形容詞、形容動詞、語構成史

1. 研究開始当初の背景

本研究に関連する先駆的研究としては、奈良時代から鎌倉時代に亘る作品毎の見出し語使用頻度を一覧表化した『古典対照語い表』（宮島氏）がある。その後「平安文学における形容詞対照語彙表」（安部氏ら）と『平安時代複合動詞索引』（東辻氏）が刊行され

ているが、それらはいずれも一共時態に限定されている。本研究は、通時的な視点を備え、かつ、語構成様式の分析も含めた語彙表を作成しようとするものであり、この語彙表は、待望されてきた『古典対照語い表』に続く基礎資料として、日本語学研究に有益な資料を提供することになる。

2. 研究の目的

(1) これまでの研究成果より、上代資料・中古資料から得られた形容詞、形容動詞の辞書を作成する。作成において重要な点は、形容詞・形容動詞語彙の辞書を作成するにとどまらず、単語を構成している部分要素（語構成要素）についても細かな調査・分析が施された辞書作りを同時に行うところにある。時代により、語（単位）の認定が異なるという可能性に対応する、あるいは、テキストデータベースを利用して形容詞・形容動詞語彙を抽出する際に、語構成要素辞書を用いることによって、新造語の検出にも対応することを目指す。

(2) 中世以降の資料から形容詞・形容動詞を採取し、これらについての語形の単位認定を行うとともに、形容詞・形容動詞の一つ一つについて、語構造論的分析による分類と造語論的分析による分類（質的情報データ）を配し、これらの情報を辞書に搭載する。

(3) (2) で収集した形容詞・形容動詞について、コンピュータによる量的データの分析的研究・実証的研究を行う。具体的には、上代形容詞・中古形容詞とそれ以降の形容詞の対照ならびに分析、また中古形容動詞とそれ以降の形容動詞の対照ならびに分析を行い、分布状況や形容詞と形容動詞の相補性などの体系的問題、その他の個別的問題を明らかにしていく。

(4) これまでのさまざまな研究成果を踏まえて、「形容詞の語構成史」および「形容動詞の語構成史」を構築する。

(5) 各語に配した質的データの精度を高める研究を行う一方で、質的データの数量化の方法や分析法の開発・改善を目指す。また、質的データと量的データの同時的分析を行い、従来の研究方法では得られなかった知見を探求する。

3. 研究の方法

(1) 上代形容詞、中古形容詞、中古形容動詞の辞書を作成する。

これまでの研究成果より、上代形容詞、八代集の形容詞、中古散文の形容詞、訓点資料の形容詞、中古散文の形容動詞、今昔物語集の形容動詞のデータベース、中世軍記物語の形容動詞についてデータベースがすでに整っているため、これらを利用して上代形容詞、中古形容詞、中古形容動詞の辞書を作成するために、下記のような作業を行う。

①「時代」あるいは「語構成」の側面から語（単位）の認定が異なるという点に対応するために、まずは、単語を構成している部分要素

（語構成要素）の辞書作りが必要である。既存のデータベースには語構造分析情報があるので、これを元にして、形容詞・形容動詞毎に語構成要素を抽出し、語構成要素辞書（第一期）を作成する。

②①の作業終了後、形容詞と形容動詞の単位基準認定にずれが生じないようにするために、単語分割の統一性に留意しつつ、形容詞と形容動詞との総合編集基準を検討し、上代形容詞・中古形容詞、中古形容動詞それぞれの第一期辞書を完成する。

(2) 中世語（形容詞・形容動詞）のデータベース作成と、データの分析を行う。

辞書作りと平行して、中世形容詞、中世形容動詞の採取を行い、中世語（形容詞・形容動詞）のデータベース作りを進め、コンピュータによる量的データならびに質的データの分析を行う。

①今昔物語集、軍記物語（保元物語・平治物語・平家物語）から採取した形容詞・形容動詞の語構成分析を行い、形容語の一つ一つについて、語構成分析情報（語構造論的分析情報・造語論的分析情報）を配し、それぞれに分類コード付けを行う。これらの語構成分析情報と使用頻度の情報等、すべての情報を入力し、データベースを作成する。

②①のデータベースを元にして、既存の語彙表の増補版を作成し、さらに、これを利用して、下記のような量的データに関する資料を作成するとともに、計量的分析を行う。

(A) 使用頻度順対照語彙表（共通作品数付）／語末から引く逆引き索引

(B) 異なり語数、延べ語数、用語使用率などの資料

(C) 単語のレンジ（使用領域の広さ・狭さ）と使用度数の関係性、単語のウエイト（単語の使用度数とレンジとの関係）などの分析資料

(D) クラスタ分析（作品間の距離の分析）

③①で行った語構成分析結果を用いて質的な側面からの分析を行う。具体的には、中世語の形容詞および形容動詞と上代資料・中古資料から採取された形容詞・形容動詞とを比較・対照し、語構成様式および語種についての歴史的変遷を考察する。

4. 研究成果

(1) 保元物語・平治物語・平家物語から形容詞を採取する作業を行い、抽出した各見出し語の認定についての検討および用例数の再点検を行うとともに、軍記物語で新たに採取された形容詞については造語形式や結合

タイプ・副次結合の度合い等の語構成論的分析を行い、既存のデータベースへの増補を行った。そして、これに基づき、『軍記物語の形容詞対照語彙表』を作成し公表を行った（大阪国際大学『国際研究論叢』21-3）。

また一方で、これまで取り上げてきた上代形容詞および中古形容詞（古代語形容詞）について、さらに以下のような計量的分析を行い、これらの実態の考察を深めた。

①いわゆる単純形容詞（第一次形容詞）が複合や派生によって二次的に合形成形容詞（第二次形容詞）を形成する条件として、①語の新旧、②使用頻度の高低、③使用範囲の広狭といった観点かどのように関わるかを分析した。

②その結果、次のような点が明らかになった。成立の新しい第一次形容詞よりも、成立の古い第一次形容詞の方が第二次形容詞を合成しやすい。使用頻度の低い第一次形容詞よりも、使用頻度の高い第一次形容詞の方が第二次形容詞を合成しやすい。使用範囲の狭い第一次形容詞よりも、使用範囲の広い第一次形容詞の方が第二次形容詞を合成しやすい（形容詞の生産性に関する一考察）。

③中古形容詞の使用のされ方において、中古散文 22 作品の中でどのような類似性が見られるかについて、見出し語の各作品での使用率に注目し、この見出し語の使用率を基に、中古散文 22 作品の異なる 2 作品間の類似度をすべて測定し、相互の関係を図示することを試みた。その結果、相互に高い類似度を示すグループがいくつか存在することなどがわかった（大阪国際大学『国際研究論叢』21-3）。

（2）鎌倉時代の中世形容詞の体系性を探るべく、まずは平成 19 年度に公表した「軍記物語の形容詞対照語彙表」に基づき、保元物語・平治物語・平家物語で使用された形容詞について、〔1〕活用形式、〔2〕構成単位数、〔3〕階層構造（副次結合度）〔4〕造語形式という観点から計量的分析を行ってその体系的特徴を考察し、この分析結果とこれまでに公表した上代形容詞および中古形容詞の分析結果から予測される変化の方向性との間にずれがあることを確認し、各作品で使用される形容詞およびその量的性格には作品の内容が大きく関わっている結論を導き出した（「軍記物語の形容詞についての一考察」）。

（3）「今昔物語集の形容詞対照語彙表」を完成させるべく、これまでに蓄積していた馬淵和夫監修『今昔物語集文節索引』全 28 巻（笠間書院）から抽出した形容詞のデータに

ついての検討を再開し、漢字の読みのばらつきや単語認定の不統一などの問題点を解決すべく、全巻を通して、問題点の洗い出しを行った。計量的分析を行うに際して最も慎重であるべき単語認定は、これまでに公表しているいくつかの語彙表（「中古散文作品の形容詞対照語彙表」「八代集の形容詞対照語彙表」「訓点資料の形容詞の語構成」「軍記物語の形容詞対照語彙表」）との統一を図るという方針のもとに再度認定をし直し、一定の基準によって見出し語の語形を決定した。そして、「今昔物語集の形容詞対照語彙表」を作成し公表を行った（大阪国際大学『国際研究論叢』21-3、23-1、23-2）。

（4）これまで、ある見出し語がそれぞれの作品にどれくらい使用されているか（使用頻度）を知るために資料として、拙著『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』巻末の八代集・中古散文作品・訓点資料ならびに、軍記物語や今昔物語集の「形容詞対照語彙表」を公表してきたが、さまざまな調査を重ねる中で、見落としていた形容詞がいくつか存することが判明したことから、それらを補って考察を加えた。

データベースの拡充という点において、過去のデータの補完は不可欠である。

（『形容詞対照語彙表』補遺、改訂・増補 古代語形容詞の語構成—上代～中世編—）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

- ① 前川 武、中古散文 22 作品の分類についての一試み、国際研究論叢、査読無、23-3 巻、2010、181-188
- ② 村田菜穂子、改訂・増補 古代語形容詞の語構成—上代～中世編—、帝塚山学院大学日本文学研究、査読有、41 巻、2010、98-164
- ③ 村田菜穂子、『形容詞対照語彙表』補遺、国際研究論叢、査読無、23-2 巻、2010、89-96
- ④ 村田菜穂子、前川 武、山崎 誠、今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝世俗部—、国際研究論叢、査読無、23-2 巻、2010、153-163
- ⑤ 村田菜穂子、前川 武、山崎 誠、今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝仏法部—、国際研究論叢、査読無、23-1 巻、2009、171-178
- ⑥ 村田菜穂子、軍記物語の形容詞についての一考察、国語語彙史の研究、査読有、28 巻、2009、67-85
- ⑦ 村田菜穂子、前川 武、山崎 誠、軍

今昔物語集の形容詞対照語彙表—天竺・震旦部—、国際研究論叢、査読無、22-3巻、2009、153-161

- ⑧ 村田菜穂子、前川 武、山崎 誠、軍記物語の形容詞対照語彙表、国際研究論叢、査読無、21-3巻、2008、185-197
- ⑨ 村田菜穂子、形容詞の生産性に関する一考察、表現研究、査読有、86巻、2007、42-52
- ⑩ 前川 武、中古散文 22 作品の類似度の測定、国際研究論叢、査読無、21-1巻、2007、111-126

[学会発表] (計 1 件)

- ① 前川 武、中古散文 22 作品の類似度の測定、情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会、2007 年 7 月 27 日、神奈川工科大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村田 菜穂子 (MURATA NAHOKO)
大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・准教授
研究者番号：60280062

(2) 研究分担者

前川 武 (MAEKAWA TAKESHI)
大阪国際大学短期大学部・ライフデザイン総合学科・教授
研究者番号：30238844

岩田 俊彦 (IWATA TOSHIHIKO)
大阪国際大学短期大学部・家政科・教授
(H19：研究分担者 H20～：退職)
研究者番号：60290318

石川 高行 (ISHIKAWA TAKAYUKI)
大阪国際大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：70388661
(H20～H21：連携研究者)

蜂矢 真郷 (HACHIYA MASATO)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：20156350
(H20～H21：連携研究者)

山崎 誠 (YAMAZAKI MAKOTO)
独立行政法人国立国語研究所・研究開発部門言語資源グループ・グループ長
研究者番号：30182489
(H20～H21：連携研究者)

(3) 連携研究者

石川 高行 (ISHIKAWA TAKAYUKI)
大阪国際大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：70388661
(H19：研究分担者)

蜂矢 真郷 (HACHIYA MASATO)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：20156350

(H19：研究分担者)

山崎 誠 (YAMAZAKI MAKOTO)

独立行政法人国立国語研究所・研究開発部

門言語資源グループ・グループ長

研究者番号：30182489

(H19：研究分担者)